パラグライダー体験

特集 座談会

思春期を考える

―― 揺れ動く子どもたちに寄り添うカリキュラム

7年生 担任
増渕 智
2年生 担任
谷口 恭子
3年生 担任
加藤 優子
聞き手
白田 拓子

Text：Miki Koshino

シュタイナー学園の教育の特色である発達段階に合ったカリキュラムを通して教員は子どもとどのように関わっているのか。中等部の担任を経験した教員と共に、思春期の子どもへの向き合い方について考えました。

白田　初等部高学年から中等部にかけてのさまざまな学びに多くの校外学習があります。外に出てエネルギーを発散させ、学びに向かうという意味もあると思いますが、どんな学びとつながっているのでしょうか。

増渕　6年生では「鉱物学」を学び、鉱物採取の校外学習に行きます。サンプルは教室でも見られますが、実際に現地に行って山の起伏を感じたり、専門家のお話を聞いたりしてから、実際に手で掘って探し当てると、子どもたちの喜びが増して目をキラキラ輝かせます。

白田　なぜ6年生で「鉱物学」を学ぶのでしょうか。

増渕　4年生で人間に近い存在である「動物学」を学び、5年生では少し人間から離れた「植物学」を、6年生では生命がなく、人間から遠い存在の「鉱物学」を学びます。地球の内部で鉱物が結晶化する様子が、前期思春期の発達とつながっています。骨が伸びるこの時期に「鉱物学」を学ぶと、子どもたちの心に響くのです。

谷口　カラフルな服を着ていた子どもたちが、無機質なモノトーンの洋服を好みはじめるのもこの時期です。歴史でいうと、残酷な古代ローマの時代を学びます。この時期の子どもたちは、外はクールに見えても、中は煮えたぎっているマグマと似ています。人間関係でさまざまな思いが噴出する時期でもあります。

鉱物採取

白田　担任に対して反抗的な態度が出てくるのも6年生くらいですよね。

谷口　子どもたちにとって、1年生のときは担任は天使のような存在ですが、6年生くらいで先生に対する疑問を持ちはじめます。ものごとの因果関係がわかるようになると、人の欠点が目についたり、怒りの矛先が他人に向かったりするようになるのです。

白田　6年生では星見合宿に行くクラスもありますよね。

増渕　教室でペガスス座の星座図を見てから合宿に行ったのですが、想像していたものよりもはるかに大きくて、みんなで「あれがペガスス座か！」と驚き、世界が広がったのを実感しました。

加藤　私のときは残念ながら雨で星は見えなかったのですが、夜の山を歩いたり、動物の鳴き声を聞いたり、いつもとは違う別世界を感じることができました。闇の体験をする間、いつもは騒がしい子どもたちが、とても静かだったことが印象的です。

白田　6年生の秋には歴史旅行に行きますね。

歴史旅行

加藤　6年生は大変な時期で、何が起こるかわからない状態ですが、法隆寺ではみんなお坊さんの話をよく聞き、丁寧にメモしていました。小さいころから耳で聞いてノートに書く体験を積み重ねている、学園の子どもたちの学びの積み重ねがあらわれていましたね。

谷口　小さいときから素話を聞いてきた積み重ねもありますし、魂の成長に合った学びをしているので、子どもたちがカリキュラムにひかれるように導けば、よく話を聞きます。

加藤　歴史もそうですが、幾何学や物理は因果関係がはっきりしているので、この時期に求められる学びですね。

白田　7、8年生ではサバイバル合宿に行くことが多いですよね。

加藤　探検家に指導してもらいながら、トイレもなく宿もない山の河原で、タープを張って、川の水を浄化して、火を起こして自炊しました。この作業をこれまた全て雨のなかで行い、まさにサバイバルで心も身体も鍛えられました。

増渕　最低限のサポートをしながら、沢登りなどの「ちょっと難しいかな」ということに挑戦させ、自分で責任を持ってやり遂げることで、ありあまるエネルギーを発散させることができます。

白田　8年生ではカヌーとパラグライダーと洞窟体験を合わせた校外学習をすることが多いですよね。

増渕　大航海時代の学びと合わせ、カヌー合宿を7年生で行っていたこともありました。7年生で自力で航海するのは難しいですが、カヌーだったら、転覆しても自分で起き上がれるので。

谷口　この時期も、お話の力は大きいですね。6年生で古代ローマの時代を学び、因果関係が見えはじめて、一人ひとりの人間性が見えてくるころです。ルネッサンスと大航海時代を学ぶ7年生は、孤独感を感じるころ。8年生は日本史や世界史で学ぶ革命の時代の話から癒やしや勇気を与えられ、何かを変えたいというエネルギーが噴出してきます。

カヌー合宿にて

白田　国語では『平家物語』を7年生で、『竹取物語』を8年生で学ぶことに最初は違和感がありましたが、7年生には軍記物の『平家物語』のリズミカルな和漢混交文が合っているし、落ち着いてくる8年生だからこそ雅な作り物語である『竹取物語』が読めるのだなと、今は納得しています。

増渕　7年生では源平の戦いを学ぶのですが、意外と女の子も壇ノ浦の戦いや女武者の巴御前など、心の火を燃やす場面に共感する子が多いのに驚きます。

白田　中等部の集大成といえば、8年劇ですね。

谷口　声を出さない、歌わないなど、舞台で練習をはじめる数日前まで全く仕上がらなかったのですが、急にやる気が出てそれぞれの持ち味が生きてきて、当日は素晴らしい仕上がりになりました。劇をやり遂げる子どもたちに、力を感じますね。